

機械 CAD 設計科

卒業認定の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

■ 育成人材像

- ① 機械設計技術者として必要な倫理観と常識を持ち、技術者として社会貢献と社会的責任を常に意識し、適切に判断することができる。
- ② 目標達成に向け、他のメンバーとコミュニケーションを取り、要求内容に対して責任を持ち、期限を守り結果を出すことができる。
- ③ 業界動向や、技術動向に対して常にアンテナを張り、興味や探求心を持って仕事に臨み、環境に配慮した設計を行うことができる。
- ④ 3次元CADなどのツールを使い、自分の考えを形にして表現し、プレゼンテーションを通して自分の考えや企画を他者に伝えることができる。

■ 身に付ける能力

- ① 機械図面をしっかりと読み、その意味を理解できること。
- ② 2次元CADを使用し、機械部品の部品図を描くことができること。
- ③ 3次元CADを使用し、機械部品のモデリングを行い、また設計ができること。
- ④ 設計に必要な、機械工学の知識を有すること。
- ⑤ 2次元CAD利用技術者試験に合格し、その知識・技術を設計にいかすことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

■ 教育課程編成の方針

- ① 豊かな教養と社会常識、技術者として働くために必要な知識を身に付けるために、「就職対策」を各年次に配置する。
- ② 1年次は、機械設計職に就くために必要なコンピュータの基礎知識、機械工学の基礎知識、図学・製図の基礎知識、2次元/3次元CADの基本的操作能力、製品開発に必要な色彩的知識を身に付けるための専門科目を配置する。
- ③ 2年次は、1年次に身に付けた3次元CADの応用技術を修得し、3次元CADと機械工学を中心に、プレゼンテーション、CG、自動車、電気、設備を総合的に学び、製品開発について一連の流れを理解し実践できる能力を身に付けるための専門科目を配置する。
- ④ 2年次後期に企業と連携した実習科目を配置する。

■ 授業実施の方針

- ① キャリア教育科目である「就職対策」はオンラインコンテンツを利用した一般常識の学修、履歴書・エントリーシートの記述指導、面接訓練等の実践トレーニングとする。
- ② 機械設計職に就くための知識修得を目的とした科目は講義形式で行うことを基本とし、知識の定着のための演習はグループワーク形式で行う。
- ③ コンピュータソフトウェアの操作技能を身に付けるための専門科目は、実習形式で行う。年間8作品程度を作成し、機械設計職で即戦力として活躍できる実践力を身に付ける。

- ④ 実践力を身につけるために実施する企業と連携した授業では、機械設計技術者として必要により現場に近い 3 次元 CAD の操作方法やモデリングの考え方、また最新の技術動向や 3 次元データを活用したこれからのものづくり方法について修得する。

■ 学修成果評価の方針

- ① 講義科目は、定期試験、小テスト、レポート、授業に取り組む姿勢をもとに総合的に評価する。各科目の評価方法はシラバスに記載する。
- ② 実習科目は、課題の提出状況、作品の完成度、授業に取り組む姿勢をもとに総合的に評価する。各科目の評価方法はシラバスに記載する。